

# 猿新聞

## 防護柵を考える

### 知ってますか柵の裏表

シカなど野生獣による農林被害は留まるところを知らず、深刻化しています。農作物に依存する野生動物は、初産年齢の低下や幼獣の死亡率や死産率の低下を進行させて、結果として集落に出没する野生獣を増加させ被害を拡大させることに繋がっています。

さて、その対策には一般的には防護柵が考えられますが、柵の設置に当たっては、野生動物の生態や習性など、その素顔を知り野生動物の目線に立つて考え、被害を徹底的に防ぐという覚悟と心構えが重要です。これが獣害対策の基本です。

防護柵は、農作物を守る対策としては、最もポピュラーで、即効性のある対策です。設置に当たっては、地域住民の意欲や価値観の相違など、合意形成を図る上で、多くの問題点も見つかります。

防護柵で田畑を囲うことで、農作物被害は抑制することが出来ますが、高齢化などで柵の設置が出来ない田畑が多く見受けられます。害獣は柵のあるところを避け、無防備な田

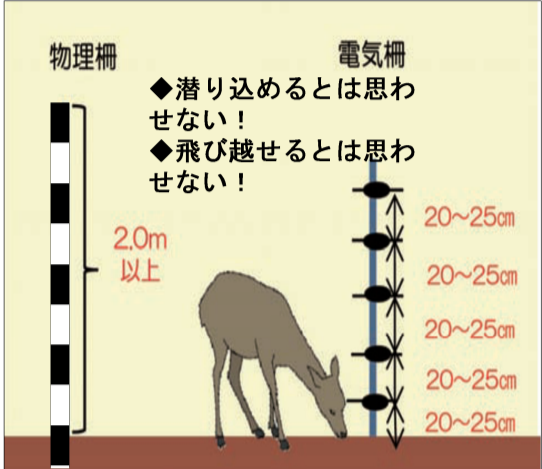
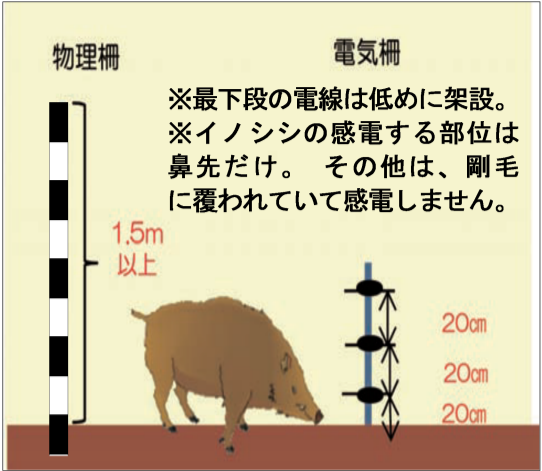
畑へ移動し被害域を拡大するなど防護柵には種々問題があります。近年、さまざまな侵入防護柵が開発されており、正しく設置すれば、被害は減少します。

しかし、現場では7〜8割の柵が正しく設置されておらず、野生動物の侵入を許しているというのが現状です。柵自体の問題はなく、柵の設置方法が間違っていて、柵の効果が発揮出来ていない田畑が多く見受けられます。

防護柵を効果的に活用するためには、野生動物の生態と習性をよく知って柵を設置する必要があります。柵の境目や柵と地面との間にわずかな隙間があれば潜り込まれ、柵が低ければ飛び越えられて

侵入を許してしまうなど、対象となる動物の行動特性を考慮することが重要です。設置方法を間違えると、効果が低下してしまい、せっかくの投資が無駄になることもあります。

◆潜り込めるとは思わせない！ ◆飛び越せるとは思わせない！



編集責任者 山村 準  
tel: 0595-63-1725  
Email: jyun.y@asint.jp  
名張鳥獣害問題連絡会  
発行部数  
【全戸回覧】  
錦生地区：100部  
赤目地区：150部  
箕曲地区：70部  
ひなち地区：220部  
つつじが丘：430部  
【全戸配布】  
国津地区：380部  
市民センター：90部  
(9地区)  
名張市議会：20部  
名張市役所：30部



メッシュ柵にも裏表がある！！



また、初歩的ともいえるような間違いがあることが多く見受けられ、困っているつもりでも、その動物に効果のある困りになっていない事例が非常に多いです。また、設置当初は効果があっても適切な管理がなされないと

め次第に効果を失っていく柵など管理体制にも問題が多く見受けられます。防護柵は設置して完了ではありません。防護柵は、設置する時よりも後の管理の方が重要で、効果を持続させるには、修繕や補強を行いつつ成長させていくことが重要です。防護柵は、野生動物を水際で食い止める最後の砦です。だが、野生動物の侵入・被害が出る前に防護柵を設置し保守管理をしっかりすることが大切です。

柵の種類は大きく物理柵と心理柵に分けることができます。

◆飛び越せるとは思わせない！柵づくりが必要！

物理柵とは、強度を持たせた柵の「高さ」により、動物の出入りをコントロールする柵のことです。

よく見受けられるのは、柵を高くする一方、下部が大きく開いているケースが多い。野生動物にとって足のケガは致命傷。無闇に跳躍はしません。大抵の場合、柵の下からくぐり抜けて侵入します。イノシシなら5センチの隙間があれば鼻先が入ります。70センチ程度を持ち上げる力があるので、強度の低い柵なら鼻先さえ入れば突破されてしまいます。横方向の隙間は、イノシシなら20センチ、シカなら17.5センチの隙間があれば通り抜けられるという試験結果もあります。柵には、ネット柵、電気柵、金属フェ

#### ◆物理柵

心理柵とは、学習によって柵を回避するようになった野生動物の心理を利用した防護柵のことです。電気柵が一般的です。

物理柵とは、強度を持たせた柵の「高さ」により、動物の出入りをコントロールする柵のことです。

◆電気柵  
電機柵の場合は、道路際ギリギリまで柵を張らないように。アスファルトや防草シートは通電性が低く、電気ショックの効果が失われてしまいます。また、電機柵も高めに張られがちですが、イノシシの鼻が触れる位置、地面から20センチと40センチ二段階でも効果があるといいますが、この辺では20センチ間隔の3段階張りが多いです。左図参照。



◆物理柵  
よく見受けられるのは、柵を高くする一方、下部が大きく開いているケースが多い。野生動物にとって足のケガは致命傷。無闇に跳躍はしません。大抵の場合、柵の下からくぐり抜けて侵入します。イノシシなら5センチの隙間があれば鼻先が入ります。70センチ程度を持ち上げる力があるので、強度の低い柵なら鼻先さえ入れば突破されてしまいます。横方向の隙間は、イノシシなら20センチ、シカなら17.5センチの隙間があれば通り抜けられるという試験結果もあります。柵には、ネット柵、電気柵、金属フェ

◆複合柵  
物理柵と、電気柵を組み合わせた複合柵は、サルを含めた複数の野生動物による被害の防止に効果的です。

◆個別柵  
最も一般的な防護柵の設置形態で、設置や撤去のタイミングを個人的判断で決められ、補修や補強などがしやすいというメリットがあります。

◆グループ柵  
隣接した農地の場合は、全体を一つの柵で囲い、お互いに協力して管理。



◆集落柵  
集落柵は、集落全体を囲って、本来の野生動物の生息地となる場所から農地を含む集落を隔離

# 「収穫後、早期に田起しをしましうー！」

## 名張市農林資源室は 早期耕耘を呼びかけています。

稲刈が終わってほっとしていませんか？ 稲刈後の8月末頃から「シカが防獣ネットに引っかかり暴れているので何とかして欲しい。」といった連絡が休日を問わず、名張市役所の農林資源室に多数寄せられます。（8月末から10月13日現在で約20件）

皆さん冬までには田起しをされるかと思いますが、獣害対策としては収穫後速やかに刈り株ごと鋤き込むことが重要となります。何故なら、刈り株から生えてくる「ひこばえ」は田植え後の新芽同様、シカの好物なのです。お米を収穫した後は、

刈後はすぐに刈り株を鋤き込むなどの対策を行う必要があります。

文・画像とも 名張市農林資源室 仙頭 賢さん

人が被害とかわからないからといって、収穫後の無防備な農地を放置しておく、結果的に自ら集落や農地にシカを呼び寄せることになってしまい、次期からより多くの労力をかけて獣害対策取り組む羽目になってしまいます。これを防ぐために、稲



「ひこばえ」を食べに来て防獣ネットに引っかかったシカ。

(写真上=収穫後の刈り株から生えた「ひこばえ」)

# 今、サルの交尾時期です

ニホンザルの交尾期は10月から12月頃で、出産は4月から6月頃。丁度今、サルの交尾の季節です。

群れの前後に付かず、離れず、数頭のオスザルが居ます。ハナレザルです。この中に恐ろしく大きいオスザルが居ます。この他数頭のオスザルと一緒に行動しています。今まで見たこともないサルたちが、群れのメス猿と交尾するのを見ることが出来ます。民家の屋根で交尾する時です。まず一頭が交尾すると、後ろに控え

ていた数頭のオスザルが交替で交尾します。この結果来年5月頃子どもが生まれます。だが、父親は特定出来ません。特定するにはDNA検査しかありません。



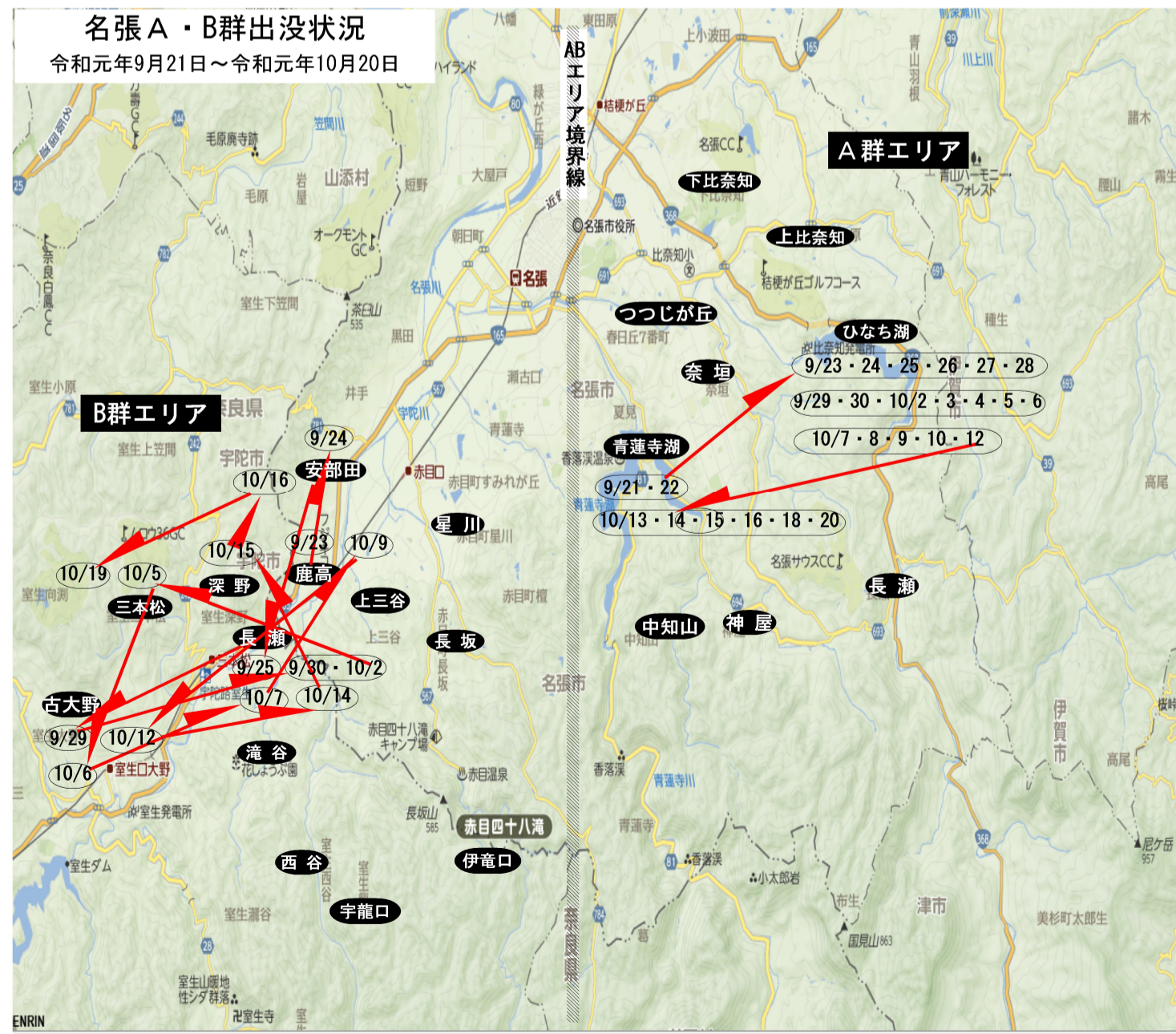
参考資料 異常出産猿の写真です。 文・古川 高志

# サルやシカなど動物にも 新型コロナは感染するのか？

米カルフォルニア大学の国際研究グループが、科学誌「米科学アカデミー紀要」に多くの動物にも感染することを発表しました。哺乳類、鳥類、魚類など10種類の動物のACE2タンパク質を持っているかを調べその感染リスクの高低を発表しています。その結果、ゴリラやオラウータン、テナガザルなど人間と同じ類人猿で非常に感染リスクが高くクジラやイルカ、ハムスターなども感染リスクが高いことが報告されています。感染すること知られているネコの感染リスクは中程度でした。イヌ、ウマ、ブタは低リスクだと報告されています。香港でペットのイヌやネコ、アメリカでは動物園のトラなどの感染が報道されました。新型コロナウィルスは、もともとコウモリが持っていたウィルスが由来と考えられています。今回の研究結果ではコウモリからの感染リスクは非常に低いことが分かったと発表されています。

「ペットからの感染は？」 この発表を受け、私たちはペットからの感染リスクがあるのか心配なところですが、厚生労働省は今までにペットから人への感染事例は見つかっていません。しかし、一般に動物との過度の接触は控えると共に、動物と接触した後は手洗いやアルコール消毒などを行うよう呼びかけています。 文・田村 修市

動物のACE2タンパク質を持っていないかを調べその感染リスクの高低を発表しています。その結果、ゴリラやオラウータン、テナガザルなど人間と同じ類人猿で非常に感染リスクが高くクジラやイルカ、ハムスターなども感染リスクが高いことが報告されています。感染すること知られているネコの感染リスクは中程度でした。イヌ、ウマ、ブタは低リスクだと報告されています。香港でペットのイヌやネコ、アメリカでは動物園のトラなどの感染が報道されました。新型コロナウィルスは、もともとコウモリが持っていたウィルスが由来と考えられています。今回の研究結果ではコウモリからの感染リスクは非常に低いことが分かったと発表されています。



# 名張A・B群 出没状況

名張A群は今、ひなち湖周辺に集中しています。サルは、群れのメンバーが変わっていつ

も、何年にもわたって同じ遊動域の中で生活を続け、食物の木などの利用の仕方、世代を越えて学習を繰り返して受け継がれていきます。

令和元年9月21日から令和元年10月20日
下比奈知……1回
上比奈知……1回
つつじが丘……2回
ひなち湖……16回
青蓮寺湖……7回
長瀬……1回

定な時でした。ひなち湖……3回 青蓮寺湖……7回 中知山……1回 秋期に、A群がひなち湖周辺に固執したたのは令和元年頃からのようです。 名張B群には、大きな変化はありませんが、鹿高神社周辺にまで足を伸ばしてきています。